

スキンケアの要点

抗がん剤の中には、皮膚の乾燥、かゆみ、黒ずみ、指先や爪の硬化、ひび割れなどの皮膚障害が起こりやすい薬があります。こういった皮膚障害は、生活に支障をきたすだけでなく、治療の中止や薬の減量が必要となって治療効果に影響を及ぼす場合があります。抗がん剤による皮膚障害の予防と症状の悪化を防ぐためには、日常のスキンケアが大事です。治療が決まったら、治療が始まる前からスキンケアを行いましょう。スキンケアの基本は、清潔を保つこと、しっかり保湿すること、皮膚への刺激を極力避けることの3つがポイントとなります。また、皮膚障害が出てきた場合は、この3つのポイントに加え、適切な軟膏類の使用やテーピング、場合によっては抗がん剤の一時的な中断や減量が必要となる場合があります。

以下に患者様のスキンケアにお役立ていただけるサイトの一例を載せていますので、ご活用ください。

- ・ ジオトリフの副作用「皮膚障害」のマネジメント

(https://www.boehringerplus.jp/product-pages/giotrif/side-effect_safety/management/detail04)

出典：ベーリンガーインゲルハイム (<https://www.boehringer-ingenheim.jp/>)

以下の点について患者さんと確認するようにしましょう。

- EGFR-TKIによる皮膚症状について説明する
 - 時期：EGFR-TKI投与直後から発現することが多い
 - 症状：赤く腫れる、吹き出物が出る、皮膚が乾燥するなど
- 副作用対策のために、治療中は以下を日常的に行う
 - 肌を清潔にする（痛みがある場合は優しく拭くだけでも可）
 - クリーム、ローション、軟膏で肌を保湿する
- 以下の症状が出た時は医療機関へ連絡する
 - 顔がかゆい、吹き出物が出来た
 - 皮膚が赤くなった
 - 乾燥して皮膚がめくれる
- 処方された外用薬、経口薬の中止、継続は自己判断せずに医療従事者に相談する

